

まわし蹴り

2008(平成20)年3月20日鑑賞〈ホクテンザ1〉

★★★



監督・脚本＝ナム・サングク／出演＝キム・ドンワン（SHINHWAのボーカル）／ヒョンビン／チョ・アン／キム・テヒョン／パク・チヨン／ムン・ジユン／イ・ギウ／チョン・ジェヒョン／キム・ヨンホ／キム・ガプス／パク・チョンハク（エスピーオー配給／2004年韓国映画／109分）

……《神話》のボーカリストが、テコンドーの試合を通じてケンカっ早い不良（ワル）からホントの男に变身！ そんな「成功体験」が生まれた原動力は……？ 男の友情や「同棲時代」のような恋物語などの定番ネタをきっちり盛り込んだ、韓国版スポ根モノの満足度は、さて……？

🎬 《神話》のボーカリストがカッコよく！

《神話》特集第2弾は、ボーカリストのキム・ドンワンがカッコよく登場する。『まわし蹴り』は、それまで不良軍団のボスだったホン・ヨンゲクが、ある事情でマンセ高校のテコンドー部の主将となり、全国大会優勝に向けて大活躍するもの。つまり、これは韓国版青春スポ根ムービー。

『ウォンタクの天使』（06年）のイ・ミノも不良高校生役だったから、なぜか韓国ではアイドルの登竜門はそんな役ばかり……？ しかし同じワルでも、『まわし蹴り』のキム・ドンワンは映画の後半テコンドーの魅力によって何かが変わり、「これぞホントの男！」というカッコいいクライマックスになるから、ファンにはたまらないかも……。

🎬 マンセ高校は今……

かつての強豪マンセ高校テコンドー部も今は落ち目で、有望選手は主将のイ・ミンギュ（ヒョンビン）だけ。コ監督（パク・チョンハク）はそんなチームに嫌気がさし、ライバル高からの引き抜きをオーケーしたが、コ監督から「お前も一緒に来い。必ず

全国一の選手にしてやる」と声をかけられたのに、なぜかミンギユはかたくなにマンセ高校に残る決断を……。

練習もそっちのけのミンギユ以外の選手たちは、バスの中でヨンゲク率いる不良軍団と派手なケンカを演じたため、これでは全国大会の出場すらおぼつかない状態。さあ、そこでソク校長（キム・ガプス）がひねり出したあるアイデアは……？

新生テコンドー部の出発だが……

ソク校長の妙案は、ヨンゲクたちがテコンドー部員として大会に出場しベスト4に入れば、ケンカ騒動による停・退学処分を解除してやるといういい加減なもの。しかして、最終的にヨンゲクたちがこれに乗ったのは当然。

その新生テコンドー部の新監督に就任したのは、ちびっ子向けのテコンドー道場を細々と(?)経営しているソン・チュンゲン（キム・ヨンホ）。これを口説いたのはソク校長の娘でテコンドー部のマネージャーをしている紅一点のスピン（チョ・アン）。

てなわけで、本作で監督デビューを果たしたナム・サングクによる、テコンドー部のドタバタ練習風景がこれから開始されるが、監督も二流・三流なら、選手もミンギユ以外は、ケンカは強いもののテコンドーはお遊び気分。こんなチームではとても、とても……？

チーム構成は？

私にはキム・ドンワンはもちろん、韓国の若手男優たちの顔と名前が一致しないから、誰がどんな役かを把握するだけで大変。ヨンゲクとミンギユ以外の選手とそのキャラは次のとおり。

第1は、高校生のくせにガールフレンドのミエ（パク・チヨン）から「妊娠したの。まさか知らないとは言わないでしょうね」と迫られ、同棲生活を開始したシン・ジョンデ（キム・テヒョン）。第2は、万年補欠のチョ・ソンワン（チョン・ジェヒョン）。ちなみに、大会出場には5人の選手が必要なところ、あくまでテコンドー部員として頑張ると決心したヨンゲクと方針が対立した、ヨンゲクの親友クォン・ヒョクス（ムン・ジユン）がテコンドー部を辞めてしまったため、新生チームはまたしても存亡の危機に……。

そんな中、突然登場したのがヒョクスの代わりに入部してきた、バレエ部出身のバレリーナ、チェ・ソッポン（イ・ギウ）。その身長のカン高さと股割りを楽々とこなす柔軟性、そしてバレリーナの美しいしぐさとテコンドーの力強い蹴りの融合のサマは圧巻！ ちなみに、彼の正式な登場までに、上半身裸でつつ立っているエキストラのようなシーンが2つあるから、お見逃しのないように……。

主将指名は？

こんな混成チーム（？）だから、ソン監督のチームワークのとり方は大変。しかし、チームの主将は当然実績のあるミンギユだと思っていると、「こんな連中とホントと一緒に闘うんですか」と疑問を提示したミンギユに対して、ソン監督は主将はヨンゲクだと宣言。こりゃまたひと波乱かと思ったが、この指名には「野村 ID 野球」のようなソン監督の深慮遠謀が……？

男の友情を示すシークエンスもしっかりと！

この映画では、ジョンデとミエの「同棲時代」のような純愛がサブストーリーの見モノだが、もう1つ男の友情を示すシークエンスも。それは不良仲間から離れられないヒョクスを救出するため、ヨンゲクが一肌脱ぐシークエンス。

昔のヨンゲクなら「さあ、俺にかかってこい！」と大ゲンカになるところだが、テコンドー部主将として試合に命を懸けて臨むと決心している今のヨンゲクは、「俺はケンカはしない」「殴るなり蹴るなり、気のすむようにやってくれ」と宣言したから、こりゃホンマもの。もっとも、それによってヨンゲクは右肩に手痛い一撃を受けたが、そのケガの程度は……？ 大ケガがバレたら、たちまちそれだけでマンセ高校はアウトだが……。

そんな男の友情のシークエンスもしっかり盛り込んでいるから、キム・ドンワンのファンにはたまらない……。

クライマックス対決は？

さあ、今日は晴れの全国大会の日。もともと前途有望な選手だったミンギユは当然大丈夫。右肩のケガを隠して出場したヨンゲクも、ベスト16、ベスト8までは何とか楽勝ペース。バレリーナのソッポンも、高くジャンプした姿勢からくり出す技が冴え

ている。毎年補欠だったソンワンも、せこいポイント稼ぎ戦法でよく頑張っていた。また、ミエから「男らしく闘ってこい」と送り出されたジョンデも、何とか必死で相手に食らいついていた。そして遂にマンセ高校はバスト4進出と準決勝での勝利を達成し、迎えるのは決勝戦。

ところが、ここで異変が2つ。第1は、妊娠中にもかかわらず応援に来ていたミエの姿が突然消えたこと。それは妊娠中毒症になったためだが、ミエを愛するジョンデは試合を放棄して病院に駆けつけると主張。それに対するスピンの説得は功を奏するのだろうか……？

第2は、いよいよヨンゲクの右肩のケガが限界ギリギリまで悪化したこと。そのため、ソン監督は試合の中止を宣言しようとしたが、ここで展開されるヨンゲクの泣かせるセリフがこの映画のクライマックス。それは、「これまでの人生は何でも中途半端だったが、テコンドーだけは生まれてはじめて真剣に打ち込んだ。それをここでやめたら、俺は一生変わらないことになる」という魂の叫び。そこまで言われたら、ソン監督も覚悟を決めざるをえないことに。

さあ、最強の敵に向かって今歩き出したヨンゲクは、今こそ「これぞ最高の男！」しかして、その試合の結果は……？ そしてテコンドー部の栄冠は……？ それは、あなた自身の目で……。

2008(平成20)年3月22日記